

民生費

■児童福祉関係

問 サポートブックの配付の考え方は。

答 子どもの心身の成長記録と資料を合わせた冊子として配付する。

問 多世代同居のための住宅整備助成の申請の見込みはあるのか。

答 実績もあり、十分見込みはある。

問 福祉サービス総合相談支援センターの予算は初年度と同額であるが対応できるのか。

答 情報共有を密にすることで、しっかり対応できると考える。

問 発達障がい児を含めた、早期発見早期対応について独自にシステム化する考えは。

答 予算計上はしていないが、保育士等のスキルアップにつながる取り組みを続ける。

■老人福祉関係

問 温泉保養施設等利用費補助金が前年と変化しないが、高齢社会であることから対象者は増

加しているのでは。

答 人数的には横ばいであるので同額とした。

問 老人福祉計画等で施設整備が進むが、問題は職員をどう採用するかでは。

答 高校生に職場体験をする等研修会を開催している。また、国・県でも人材育成に向けた対応を検討しているの

衛生費

■保健衛生関係

問 健康ポイント導入についての検討は。

答 国民健康保険において検討することとしており、他市の状況も含めて検討中である。

問 三次周産期医療機関の医師確保について、特に産科医、小児科医の確保は重要と考えるが、対応は。

答 産科医については9月補正で確保済みであるが、小児科医についても確保していただけ

るよう病院側にはたつきかけている。

農林水産業費

■農業振興関係

問 モンキードックについて、現在、果樹園を営んでいる方が大変困っている現状がある。追い払うだけでなく根本的な対策が必要では。

答 県で朝日地域の実態調査を実施するので、その結果を踏まえて検討する。

問 農業施設等整備費助成について、ハウスの更新については助成が受けにくいと聞くが。

答 更新については、県がポイント制を採用している、どうしても低いポイントになるため、今後県と協議する。

■土地改良関係

問 北高山地区は計画されてい

ないが、現在のところ計画はしていない。北地区も含め今後まとまりが出てくれば計画していく。

■林業振興関係

問 飛騨高山森の仕事人養成塾の対象者は。

答 飛騨地域以外の18歳から40歳の人が対象である。

問 定年退職者も対象にできないか。

答 検討したが、林業従事者の平均年齢が岐阜県下で46歳、高山で45歳であること、また斜面等での作業を考慮して決めた。

問 募集方法と選考方法は。

答 ホームページ、就業説明会等により、幅広く募集し、選考についても林業関係者に入ってもらい決めていきたい。なお、募集は秋以降。また、3年間で10名の育成を考えている。

問 該当者の住居等の対応は。

答 市営住宅の空部屋を念頭に月額3万5千円の補助を考えている。

問 民間住宅を希望された場合は差額が自己負担となる。

成を3年計画で実施することのことが、前倒しできないか。

答 一刻も早く処理したいと考えているが、実

況をみながら、また人材確保も図りながら計画に沿って対応していきたい。

商工費

■商工振興関係

問 伝統的工芸品産業後継者育成について森の仕事人養成塾のような対応は。

答 組合からの聞き取りなどを踏まえて、建物等ではなく、補助金による支援とした。

問 創業支援事業で起業後のサポート等について市の考えは。

答 月1回の相談窓口開催、起業間もない方のセミナー等を開催し、銀行等関係機関とも連携し対応している。

■労政振興関係

問 若者定住促進として該当者の把握と案内の方法は。

答 高校生については学校に案内している。大学・短大生については

文書を発送している。しかし、高校卒業後就職している方の把握についてはしていない。

今後、対応を検討する。

問 U-Jターンの家賃助成の内容について見直しは。

答 他市の例も踏まえて現状のままとした。

■観光振興関係

問 5回目となるウルトラマラソンの計画は。

答 5回連続出場者に記念品を、また沿道のおもてなしの内容を充実させたい。

問 おもてなし文化振興補助を今後増額する考えはないのか。

答 大切な事業であり文化であると考えており、今後どのような対応が必要かも考え検討していきたい。

■自然公園関係

問 乗鞍における自動車の適正利用についての取り組みで限定的な自由化を検討しては。